ボランティアの活躍により通いの場の空白地域の課題に対応

介護予防・重度化防止

高齢者 | 子ども | 若者 | 地域住民 | 障害者 | 生活困窮者 | 認知症の方 | その他

住民ボランティア団体を中心とした介護予防教室

熊本県大津町

基礎情報	
人口（R7.1月時点）	36,343人
高齢化率（R7.1月時点）	23.3%
要介護認定率（R7.1月時点）	18.4%
取組の予算規模（年間）	約80万円

詳細はHPから

https://www.town.ozu.kumamoto.jp/life/3/16/67/

取組概要

- 大津町が養成した介護予防サポーターを中心とするボランティア団体「元気あっぷサポーターズの会」に事業を委託し、介護予防教室や体操教室、通いの場を運営している。
- 行政直営ではなく、ボランティア団体が主体的に企画・運営し、地域包括支援センターが後方支援を行う体制を構築している。

背景・きっかけ

- 介護予防や生活支援の担い手を住民から養成し、住民主体で高齢者の生きがいづくりを行う仕組みが必要と考え、地域に眠っている人材の発掘と活用を目的として取組が開始した。
- また、町内には住民主体の通いの場が多く存在するものの、地区によって実施状況に偏りがあり、特に一部地域では通いの場が不足していた。さらに、通所型サービス終了後の継続的な運動機会の確保が困難であり、移動手段がないことで社会参加につながらないケースも課題となっていた。



介護予防サポーター養成講座の様子

取組の経緯

- 2009年に介護予防サポーター養成講座を開始し、修了者10名により脳トレ教室を実施した。
- 2011年には修了者26名で「元気あっぷサポーターズの会」を発足し、組織的な活動に発展。
- 活動の質を担保するため、養成講座修了を参加の前提条件とし、知識を習得した上でボランティア活動に従事する体制を整えた。その後、町が介護予防教室等を委託する形で事業として継続している。

住民ボランティア団体を中心とした介護予防教室　熊本県大津町

取組詳細

- **取組内容**
  - ✓ 「元気あっぷサポーターズの会」が主体となり、介護予防教室、太極拳等の体操教室、通いの場を企画・運営するほか、各活動に参加する高齢者の見守り等も行っている。
  - ✓ 地域包括支援センターがボランティアを養成する「介護予防サポーター養成講座」を主催しており、全5回で介護に関する基礎知識や認知症・老化・障がいへの理解、生活支援技術等について講義を提供している。
- **実施体制**
  - ✓ 実施主体：大津町（地域包括支援センター直営）
  - ✓ 連携先：元気あっぷサポーターズの会（介護予防教室等の事業を委託）、社会福祉協議会（場所の提供）
  - ✓ 3か月に1回程度、会議を行い、事業の実施状況や実績報告、スケジュール等の共有を行っている。
- **財源**
  - ✓ 重層的支援体制整備事業補助金（年間約80万円程度）

成果

- 通いの場が不足する地区の住民が介護予防活動に参加できる環境を整備でき、週1回以上の外出機会の創出や見守り機能の強化につながっている。
- 通いの場の利用者がボランティアとして運営側へ移行する事例もあり、担い手の循環が生まれている。
- 行政直営と比べて、比較的低コストで継続的な運営を実現している。

今後の展望

- 「元気あっぷサポーターズの会」の会員がボランティア活動で培った経験を活かし、通いの場がない地域で新たに通いの場を立ち上げることを目指している。

取組のポイント

- **低コストで継続可能な運営体制の構築**

大津町が主催ではなく、ボランティア団体である「元気あっぷサポーターズの会」が主体となり、介護予防教室等を実施しているため、比較的安価な経費で事業の運営・継続ができている。



介護予防サポーター養成講座のチラシ